

令和4年度 本庄市青少年健全育成のつどい



日時：令和4年11月19日(土)
午後2時～

会場：本庄市児玉文化会館セルディ ホール

主催：本庄市青少年育成市民会議
後援：本庄市・本庄市教育委員会
本庄市青少年問題協議会
青少年育成埼玉県民会議



ごあいさつ

本庄市青少年育成市民会議

会長 芦澤 吉一

皆様、本日はご多用の中ご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様方におかれましては、日頃から青少年の健全育成のために並々ならぬご尽力をいただいております。この機会に改めて感謝申し上げます。

このつどいを主催いたします本庄市青少年育成市民会議は、青少年の健全育成にご尽力されている関係団体で組織しており、青少年育成埼玉県民会議に所属し、内閣府や文部科学省などの情報を得て事業の推進を図っています。

さて、コロナ禍で長期にわたり制約のある生活を強いられ、多くの児童・生徒がストレスを抱えています。

青少年をめぐるのは、ひきこもりや不登校、いじめ、虐待、貧困、それから「自分には居場所がない」「自分は誰にも必要とされていない」そんな不安や感情に悩んでいる子どもたちなど、社会生活を営む上で困難を有する青少年の問題は依然として深刻です。

また、インターネットやスマートフォンの普及に伴う長時間利用による生活習慣の乱れ、ネットやゲームへの依存、SNSに起因する性被害などの問題も増加しています。

これらの多様で複合的な問題の解決には、家庭、子ども、地域が一体となって社会全体で青少年を見守り育てていく必要があります。しかしながら、今日、経済的な豊かさの中で、我が国の社会は、少子高齢化や情報化等が進展し、人と人が直接触れ合う機会が少なくなってきました。それでも、このような時代だからこそ、地域社会が青少年を見守り育てるという環境が必要であると思います。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年たちがお互いに手を携えながら、元気に笑顔で、夢の実現のために一歩踏み出す人材に育つことを願っています。ふるさとを愛しつつ、国内だけでなく世界で活躍されることを期待しています。青少年が、広い視野と正しい見識を有し、豊かな情操と思いやりの心を身に付け、たくましく未来を切り拓くことが出来るように環境を整えていくことが、私たち大人の大きな責務です。

その責務のひとつとして、本日「つどい」を開催いたしますが、次世代を担う子どもたちが、日頃の生活の中で感じた家族や友達、地域の人々に対する思いや感謝、あるいは感銘を受けた経験、更には将来への決意などを自分の言葉で表現し、同世代のみならず社会に向けて発表する場としています。あわせて、青少年の考えを多くの人々に訴えることにより、青少年に対する理解を深め、青少年健全育成を推進する契機として市内中学校6校11名の生徒による青少年の主張発表を実施するものです。

また、青少年健全育成標語は市内小・中学校の児童・生徒から3,112点もの応募をいただきました。本庄市青少年育成市民会議で慎重に審査を行い、優秀作品を選ばせていただきましたが、どの作品も素晴らしいものでした。

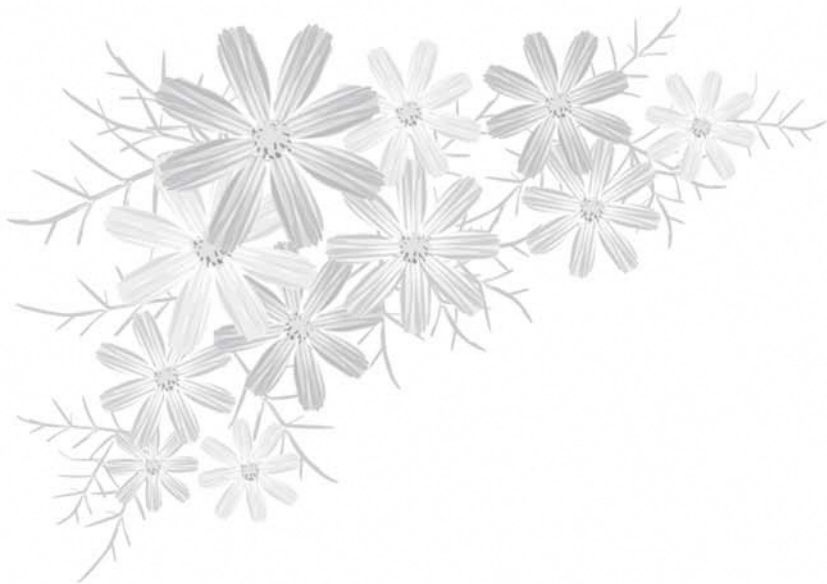
また、地域の青少年育成関係者や団体より長年にわたり青少年の健全育成にご尽力している方や団体をご推薦いただき、青少年育成功労として表彰させていただきますが、今後とも変わらぬご指導をお願いいたします。

最後になりましたが、日頃より本庄市青少年育成市民会議にご理解ご協力を賜っております皆様へ感謝を申し上げ挨拶といたします。

目次

青少年の主張

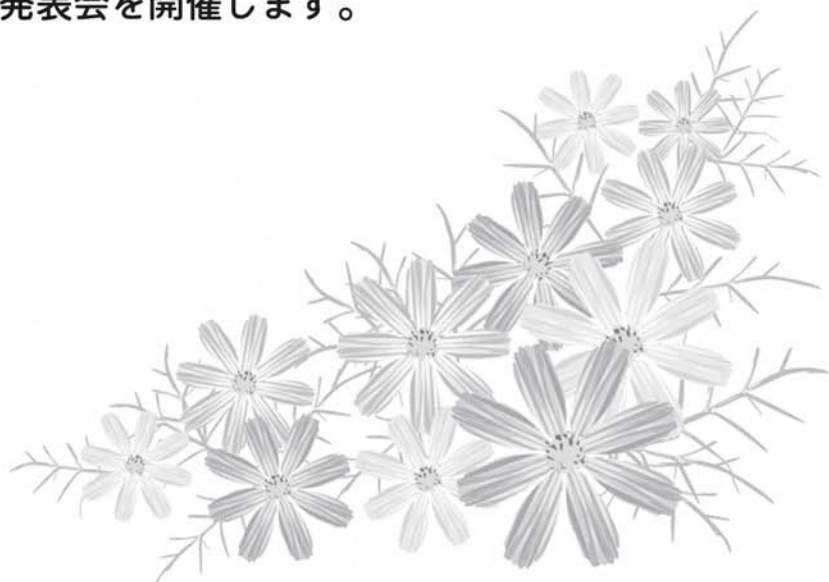
互いが尊重し合う世の中へ（本庄南中学校3年 村山 莉梨）	2
私の夢（児玉中学校3年 黒澤 昂）	4
変化する社会の中で自分を見つめる（児玉中学校3年 木内 眞緒花）	6
私のなりたい、素敵なお人（本庄東高等学校附属中学校3年 篠田 果凛）	8
普通とは何か（本庄東高等学校附属中学校3年 高柳 憧）	10
みんなが幸せになるために（本庄第一中学校2年 小畑 実由）	12
私の未来は（本庄第一中学校2年 栗生 紗希）	14
私のおばあちゃん（本庄東中学校2年 村上 滉歩）	16
絶滅を選ばない未来の地球のために（本庄東中学校3年 山口 耕平）	18
夢とは（本庄西中学校2年 戸田 諒生）	20
私たちの手で未来を変える（本庄西中学校2年 遠藤 幸愛）	22
青少年健全育成標語入賞作品	24
青少年・青少年育成者等功労表彰	27
本庄市青少年育成市民会議の主な行事	30
青少年育成埼玉県民会議表彰者の紹介	30
本庄市青少年育成市民会議組織図	31



青少年の主張発表会

青少年の非行やいじめが大きな社会問題として論議されているが、青少年が大人社会をどのように見ているか、将来に対してどのような夢を抱いているかを知る機会意外に少ない。

大人が、子どもの目を通した率直な意見に耳を傾け、家庭教育や地域の教育力の向上に資することを目的に、青少年の主張発表会を開催します。



互いが尊重し合う 世の中へ

本庄南中学校3年

むらやま りり
村山 莉梨



みなさんは、この世の中にどのような差別があるか、知っていますか。

日本国内でも、差別・高齢者・子ども・人種・宗教など、様々な差別があります。なぜ、差別は起きてしまうのでしょうか。なぜ、差別は無くならないのでしょうか。

原因は、私たちの差別に対する関心の無さや、正しく差別を理解していないことだと考えます。

そこで私は、差別の中でも障がい者差別を無くしていくために、どうすればよいのかを述べます。なぜ、障がい者差別かという、私のおばあちゃんは身体障がい、家で中や外で苦労したと見聞きしたからです。また、私が出かけたときに、車椅子利用者が困っているにも関わらず、誰も助けようとしなかったのを見たからです。

私たち一人一人が、身体障がいに関心を持ち理解して、身体障がい者差別を無くすために、次の二つのことを行う必要があります、行えるよう努力したいと考えます。

まず第一に、身体障がいに関する知識や情報を発信します。SNSを利用し、若い世代の人たちに、身体障がいとは何か、どう一緒に生活していくかなどを伝えていきます。その際には、実際に身体障がいの方の声をしっかりと聴き、彼らの気持ちや思いも伝えていきたいと考えます。例として、YouTubeに生活の様子や手助けしてほしいことを、動画にして載せます。また、身体障がいや身体障がい者差別に関する知識が豊富な方をゲストとして招待し、講演会を配信します。

次に、身体障がい者と健常者が交流する場を設けます。例えば、身体障がい者

の人と車椅子バスケットボールをします。健常者は車椅子に乗ってプレイします。そうすることで、車椅子を使うことの難しさや大変さを知ることができると思います。また、実際に車椅子を使っていて、困っている人を見かけたとき、手助けすることができるようになると思います。また、車椅子体験などをする場を設けます。車椅子だけでなく、体におもりをつけて階段の上り下りをする体験や、片足で日常にある障害物をよけながら歩く体験を行います。そうすることで、身体障がいを抱えている人がどのようなことで困っているかを知り、手助けの仕方を学ぶことができると思います。

以上の「発信」や「交流」を定期的、かつ継続的に行っていけるようにすることが、身体障がい者差別を無くす手段だと考えます。

しかし、今の私には、先程述べたことを行うのは現実的に不可能です。ですが、必ず私が大人になったら実現してみせます。そのためにも、今は学校での学びを深めつつ、障がいに関することを学んでいきます。また、私が実現しようと思っていることは、一人ではできません。様々な人との協力・連携が必要となってくるので、学校生活では様々な人と話すなどして、コミュニケーション能力を高めていきます。さらには、土日に障がい者施設のボランティア活動に参加させていただき、経験を深め、人脈を広げることができればよいと考えています。

障がい者への差別は根深く、解消は難しいですが、私は決してあきらめることなく、様々な人と手を取り合い、地球上から差別を無くしてみせます。支え合い、互いに理解し合える、幸せな社会をつくるために。



私の夢

児玉中学校3年

くろさわ すばる
黒澤 昂



私は、児玉をサッカーの強い町に復活させたいと思っています。

私は、小学校低学年から地元のスポーツ少年団でサッカーを始めました。始めたきっかけは、仲の良かった友達に誘われたことからでした。学校の休み時間にみんなでするサッカーが楽しく、友達と一緒にならと安易な気持ちで始めました。サッカーを始めてみると、初めからうまくできるわけもなく、基礎練習もボールさばきも、何をやってもチームメイトのようににはできませんでした。上手になりたいと休まず練習に参加し、一生懸命頑張りましたが、なかなか上達しませんでした。試合では、自分のミスから失点につながる事が多く、監督から一番注意され相手チームに背番号と名前を覚えられるぐらい、何度も何度も注意されていました。今となっては、たくさん注意されたことが今の自分の力となっており、感謝しています。その頃の私たちのチームは、県大会出場を目指して練習に取り組み、小学校最後の年には3大会で県大会に出場することができました。県大会出場をかけた試合で得点を決めたときの感激、チームメイトの満面の笑み、そして勝利が決まった瞬間のチームメイトとの喜び、感動は今でも鮮明に覚えています。私はサッカーを通して様々な事を学び、成長できたと思います。

チームメイトの祖父の話では、祖父が現役でサッカーをしていた時代は、児玉はサッカーの強豪であったということです。地元チームのコーチも児玉のサッカーを強くしたいと日々熱心に指導してくださっています。

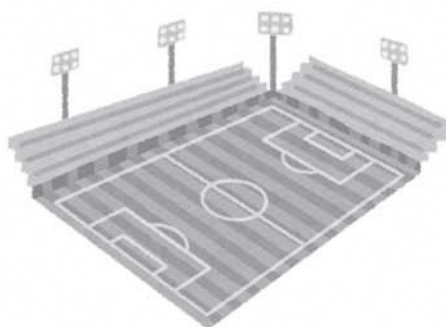
私は、児玉のサッカーが強くなる為には、どんなことが必要か考えてみました。一つ目は、施設の整備です。児玉の市営サッカー場は8人制のコートが2面し

か取れず、試合前のアップをする場所や駐車場も狭く、とても不便です。他の会場では、11人制のコートが2面は取れ、アップできる場所や駐車場も広く、人工芝のグラウンドや公園に隣接しているところも多くあります。ご高齢の方がウォーキングや体操ができる、子どもたちが遊具で遊びながらサッカーを自然に目にし、興味を惹くことができる。そんな自然豊かで大きな運動公園が、児玉地域にできると良いと思います。

二つ目は、子どもたちがサッカーに興味を持ち、サッカーを続けたいという気持ちを持ち続けてもらうことです。児玉中学校のサッカー部は人数が少なく、他の学校との合同チームで大会に参加しています。私はクラブチームに所属しているため、学校総体等の大会には参加できません。部活動を盛んにするには、クラブチームに所属している生徒も試合に出場できる新ルールが必要だと思います。また、本庄市ではブラインドサッカーの普及に力を入れています。ブラインドサッカーは、目に障がいを持つ方々がボールの中の鈴の音を頼りにサッカーを行うスポーツです。私もアイマスクをしてブラインドサッカーを体験したことがあります。また、間近で試合を観ましたが、激しい接触プレーやボールさばきは、見えないことを感じさせませんでした。多くの方がサッカーと一緒に楽しめる児玉になったら、素晴らしいと思います。

私はサッカーの強い児玉を復活させるために、これらのことを多くの人たちに働き掛けられる大人になりたいと思います。そのためには様々なことにチャレンジし、コミュニケーション能力を高めることが大切だと思います。そして、自分を磨きみんなをまとめる力、豊かな人間性を高めていきたいです。児玉のたくさん子どもたちが、勝利の感動と喜びをチームメイトと分かち合える日が来ることを私は願っています。

この夢を将来実現させるために、今の気持ちを忘れずサッカーを通じて児玉という地域に貢献していきます。



変化する社会の中で 自分を見つめる

児玉中学校3年

きうち まおか
木内 眞緒花



私は昨年度の立志式で、将来、理学療法士になりたいことを発表しました。立志式とは、自分の将来について考え、強い意志を発表する場です。そして、十四歳といえば元服の年、一人の大人として自立していく年齢にあたります。服装や姿勢を正し、胸を張って自分自身の言葉で、自分の夢を語り、みんなの前で誓う場です。

私が理学療法士になりたいと思った理由は、二つあります。

一つ目は、身近にいる兄が、理学療法士になるために一生懸命勉強している姿を見たり、私たち家族に、実習の話を楽しそうに話してくれて、理学療法士の楽しさや、やりがいを身近に感じる事ができたからです。目標に向かって努力している兄の姿を見て、大きな影響を受けました。

二つ目は、私の祖母が脳梗塞で倒れ、体の左側に麻痺が残り、リハビリをしていたからです。病院で理学療法士の先生と身体が動くように一生懸命にリハビリをしている姿を見ました。そのときの理学療法士の先生が、痛がっている身体を丁寧に、優しく動かし、治そうとしてくださいました。私は、その先生に憧れ、理学療法士になりたいと思いました。

理学療法士とは、PTと呼ばれ、怪我や病気などで身体に障がいがある人に対して、座る、立つ、歩くなどの基本動作を回復させるために支援する仕事です。関節可動域の拡大、能力強化、麻痺の回復、痛みの軽減など、運動機能に直接働きかける治療法から、動作練習、歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指します。

このようなことから、一度は理学療法士になりたいと考えましたが、三年生に進級した今、将来について更に真剣に考えるようになりました。その中で、理学療法士になることが、果たして自分に合っているのかどうか、悩み始めてしまいました。それは、コロナ禍で、世の中が不安定になっているからです。現時点では少子高齢化が進んでいるので、理学療法士は大変需要があります。ですが、今は働き方も多様化してきて、新たな仕事も増えています。そして様々な職種があることを知り、私の未知の仕事で私に合っている仕事があるのではないかと、疑問を感じてしまっているのが現在の私です。立志式の時とは違った私です。

しかし、色々迷いはありますが、今すぐ結論を出す必要はないと考えるようになりました。色々考えると、今すべき事は、この先、なりたいと思った仕事に就けるように一生懸命勉強する事です。また、何事にも人として誠実な心で真面目に取り組む事だと思っています。私は吹奏楽部に所属していました。三年間の最も大きい行事である定期演奏会に向けて、部員全員が一生懸命練習してきましたが、コロナ事情で、前日に中止になってしまいました。この時は、涙が出るほど悔しかったです。けれど、演奏できることを信じ、練習を続けました。顧問の小林先生が新たに演奏会の日を設定してくださり、三年間の力を出し切って最後の演奏をすることができました。あきらめず練習をした努力が報われたのだと思いました。

児玉中学校での三年間は、自分の将来のことをじっくり考えるきっかけとなる、貴重な経験となっています。理学療法士になってもならなくても、多くの人々を助けられるような、世の中の人たちの役に立てるような大人になりたいです。

そして、一度しかない人生、今を大事に学校生活を楽しみ、自分の将来は自分で考え行動し、切り開いていきます。



私のなりたい、 素敵な人

本庄東高等学校附属中学校3年

しのだ かりん
篠田 果凛



私は吹奏楽が好きだ。一人で演奏するのも悪くない。ただ、さまざまな楽器の音色を聞いて、それに自分も合わせて演奏するのが他にはない感じで私は好きだ。

そんな私は、パーカッションという打楽器全般を演奏するパートだ。小学生の頃、校内の金管バンドに遊びに行った際、目に留まったのがパーカッションだった。私はその頃、他とは異なった個性の強いものが好きで、自分もそうありたいと思っていた。そんなパーカッションは、個性の強いものに見えた。とりわけ、ドラムセットは私を刺激した。沢山の太鼓やシンバルを勢い良く叩いていたのは、「かっこいい。」としか言いようがなかった。気づいたら私は入部届を出して、その後どんどんパーカッションにのめりこんだ。

私は現在、週に一回、ある楽団でパーカッションを練習している。その楽団は大人が大半を占めており、私は最年少である。最初は誰にも救いを求められなくて怖かったが、自分から率先して動くことで周囲の大人が気にかけてくれ、よく話しかけてくれるようになった。

私はそこで、二つの事を意識して練習に励んでいる。

一つ目は、「パーカッションは、ラーメンで言ったらスパイスだ」という言葉。私はパーカッションを始めてから、ずっと自分さえ目立っていればいいと思っていた。しかし、周りの大人がそのような言葉を教えてくれた。

「パーカッションは無くても演奏は成り立つが、他の楽器を引き立て、音楽全体の厚みを増す事ができる。周囲の雰囲気に合わせて演奏法を変えてみると、より良くなる。」

と言ってくれた。それを聞いて、パーカッションはとても奥が深いと思い、考えが変わった。今の私は自分中心ではなく、全体を把握して演奏することを心がけて練習している。例えば、ソロという一人で演奏する所も、周りの雰囲気に合わせて強弱やテンポを変えたり、逆に力強く演奏する時は体全体で大きく演奏したりしている。いつか、極上のスパイスになれるようにと練習している。

二つ目は、感謝をしながらやること。これは吹奏楽だけに限ったことではないが、私は色々な人から支えてもらっている。楽器の片付けの手伝いや、演奏に向けての準備、私が知らないことを丁寧に教えてくれるなど、数え切れない程のサポートがある。私は、お礼を言っているものの、一つ一つに応えているかと言われると、正直出来ていないと思う。だからこそ、元気に挨拶をしたり、率先して荷物運びをしたりする事が大事だと思った。

また、演奏会では指揮者や団体の人たち、見に来てくれた家族や友人に感謝しながら演奏している。後で自分の演奏を撮っていたビデオで確認したが、それだけでも音色が違うことに驚いた。私はその楽団だけではなく、学校でも吹奏楽部に所属している。そして実は、陸上部と兼部している。そんな無茶を認めてくれたのは、他でもない先生方や親だ。今、文章にしてみる事で改めてありがたさを感じた。

私たちは大人でもなく子どもでもない、とても曖昧な存在である。大人らしい振る舞いが出来ない事を、子どもだからと多めに見てもらうのも違うと思う。私は周りの人のおかげで吹奏楽と深く向き合い、協調すること、周囲に気を配ることの大切さを学ぶ事が出来た。そんな私が尊敬している大人は、吹奏楽団のパーカッションのメンバーのような大人だ。彼らは仕事で忙しい中、趣味も両立し、私が意識して行っている二つの事もさりげなくこなしている。そんな素敵な大人に私は、なりたい。



普通とは何か

本庄東高等学校附属中学校3年

たかやなぎ しゅう
高柳 憧



普通という言葉は、日常生活のさまざまな場面でよく使われています。僕も普通という言葉は使います。でも、「普通このぐらいはできるでしょう」とか「普通はこう考えるでしょう」と言われたことがあり、疑問に思っていました。それは、相手が言ったことが僕にとって普通ではなかったからです。当たり前のように普通であることが正しくて、普通という枠から外されたものは異常となっているように感じます。自分が普通だと思っていることが、他の人が思っている普通とは違うことがあります。普通という基準はみんな同じではなく、育ってきた環境や今まで経験したことによって人それぞれです。違うのが自然で当たり前なことです。今まで生きてきた中で自分が経験したことから、自分の中の普通が出来上がったのだと思います。

普通という言葉調べてみると、ごく平均的な水準を保っていて取り立てて問題とする点がない、特に変わった点が認められないことと書かれてありました。普通とは、物事に対して多数の人が同じ意見だった場合のことで、人数の割合が多いことを言っているように思えます。

僕が通っていた小学校は一学年一クラスで、僕のクラスは七人でした。六年間この七人で過ごして来ました。保育園の頃からを考えると九年間ずっと一緒でした。入学した時からそうだったので、これが普通だと思っていました。けれども、同じ小学校以外の友達から、一クラスしかないことやクラス替えがないことを驚かれました。人数が少ないからといって、困ったことはありません。他の学校に通っている人たちと何も変わりません。パソコンは一人一台使うことがで

きたり全校児童の顔と名前を覚えられるので、みんな仲が良かったです。僕にとっては普通のことでしたが、他の人にとっては普通のことではないのでしょうか。それを多数の人が普通ではないと言ったら異常になるのでしょうか。

また、自分の普通を押しつけてくる人がいます。言われた人は何事もなく自分のペースで過ごして来たのに「これが普通なのだ」と思い言われたことで、傷つく人もいるかもしれません。自分が普通だから絶対に正しいとは限りません。人それぞれ、物の見方や考え方や行動は違うものです。それを受け入れてこういう考え方もあるのだと理解し、お互いを認め合うことが大切だと思います。みんなが同じ意見で良いこともあるとは思いますが、みんながそれぞれ違うから、発見があったり気がつくことがあったりするのではないのでしょうか。

僕たちが暮らす社会には、さまざまな人が生活しています。誰一人生きづらと思うことのないよう、みんなが安心して暮らせるようにならないといけません。そのためには、その立場に立った人のことを考えることが大切で、社会の中にある普通を変えていかないといけないと考えます。その人にはその人の普通があります。普通という枠に入っている人が良い人で、入っていない人が悪い人ではありません。枠にとらわれず、物の見方や考え方が違う人とも関わっていき、僕は自分の世界を広げて成長していきたいと思っています。



みんなが幸せに なるために

本庄第一中学校2年

おぼた みゆ
小畑 実由



私は、この世界から戦争や格差・差別などがなくなり、みんなが毎日を笑顔で過ごせるような世界を作りたいと思っています。

私が将来について考えるきっかけを与えてくれたのは、ある日の塾の帰りに男性から受け取った一枚のチラシです。そのチラシには、やせ細って破れた服を着ていたり、泣いていたりする子どもたちの姿の写真が載っていました。思わず周囲を見回してみましたが、そのような人は一人もいません。みんな清潔な服を着て、明るい街灯の下を歩き交っていました。私も当たり前のように毎日おいしい食事を食べ、衣食住に困ったことはありません。そして、両親は私がやりたいことを最優先して、いつもサポートしてくれます。同じ地球に住んでいるのに……そんな気持ちで、帰宅するまでずっとそのチラシの写真が目の前にちらついて仕方がありませんでした。そのチラシをよく見てみると、難民の命を守り、保護する団体のものでした。「難民の人ってどんな生活をしているのだろう。」ふとそんな疑問が生まれ、気になって調べてみたところ、子どもが労働を強いられたり、生活の援助をしてもらうために未成年の少女が結婚を選択させられたりなどと本当にひどいものでした。そして、私は決意をしました。このように苦しんでいる子どもたちを助けて、世界を幸せにしたいと。

ところで、世界で苦しんでいるのは子どもたちだけではありません。私が小学生の時には、アフリカ系アメリカ人の黒人男性が、警察官の不適切な拘束方法によって殺害されました。この事件以降、全米でBLM運動と暴動が多数発生しました。BLMとは「Black Lives Matter」「黒人の命をないがしろにするな」という意味です。

人種差別は昔からあり、すぐに消えるものではありません。しかし、最近このようなことが注目され、人種差別も徐々に減ってきていると感じています。それから、日本でまだ解決できていないのが、ジェンダー差別だと思います。私は最近、受験について色々と調べています。すると、定員の男女比が不平等な学校がありました。また、過去には、不正をして女子の入学数を減らした大学があるというニュースも耳にしたことがあります。様々なところで女性が不利になっている現実があります。

世界中には様々な差別があります。これらを解決していくには、どうしたらいいのか考えました。根本的に問題を解決するにはどのような行動をしていくべきか考えた結果、将来は国連職員になって、紛争や人権、貧困問題に取り組んでいこうという決意が生まれました。国連職員は世界中の様々な問題解決のため、実際に問題が起きている国に赴任し、解決に取り組みます。そのため、高度な語学力や専門性のほかに、世界の問題解決への意欲や熱意が必要とされる職業です。就くのが難しい職業ですが、努力を継続し、問題意識を持ち続けることで、きっと道が開けると考えています。

世界中で起きている悲劇を解決するのは、とても難しいとわかっています。背景には、歴史的な問題、経済問題、教育問題など様々なことがあると思うからです。ですが、私はそんな世の中を変えたい。だから、他人事として見過ごさず、差別には非難の声を上げること、声を上げることでそのようなことが現実に起きていると沢山の人が知ってもらうこと、何より自分は差別をしないことを胸に、今を過ごしています。



私の未来は

本庄第一中学校2年

くりう さき
栗生 紗希



私はまだ、将来何をしたいのかが決まっています。ですが、将来の夢はよく聞かれる質問です。収入が安定していてやりがいのある仕事に就きなさい、とよく言われますが、はたしてそれが正解なのでしょうか。

「大きくなったら何になりたいの？」

この質問は私が幼稚園児の頃、一番嫌いな質問でした。母に聞いた話ですが、ある日、私は幼稚園から帰るなり大きな声で、

「紗希ちゃんは大きくなったら、ただ歩いている人になる。」

と言ったそうです。母は一瞬意味が分からなかったそうですが、きっと、幼稚園で将来の夢を発表する際、ケーキ屋さんや花屋さんなどの具体的な職業を挙げる子が多い中、決まっていない娘は周囲に急かされ、だんだんと怒りがわいてきて「ただ歩いている人になる宣言」をしたのでは、と推測したのだそうです。今の私には「ただ歩いている人になりたい」と言う勇気がありません。ですが、大人の価値観に縛られて生きてはだめだと、幼い頃の私から教訓を得たような気がしました。

現代は、今までの常識や価値観自体に大きな変化が起きています。例えば、現在アメリカの野球チームで活躍している大谷選手は打者と投手を両立していますが、初めはできるわけがないと周囲の誰もが反対していたようです。また、私の好きな絵本作家の一人であるヨシタケシンスケさんは、もともと絵本作家を目指していたわけではありませんでした。芸術系の大学院を卒業後、半年だけゲーム会社に勤務し、企画書を作る部署でしたが、ずっと好きな落書きをしていたのだ

そうです。そして、書き溜めたイラストを自費出版したものが出版社の人の目に留まり、イラスト集として出版することになります。絵本作家として世に出たのは四十歳の時のことだそうです。

ある大学の調査結果では、AIの発達により、今後20年以内に現在ある仕事の約半数が消える可能性があるそうです。覚えたことを繰り返す単純な作業は、速く正確に仕事をこなせるAIにはうってつけの仕事かもしれません。将来、私たち人間は、答えが一つしか無いような仕事ではなく、自分の頭で考え、自分なりの答えを見つけ、その答えを仕事に活かすことを求められるようになるでしょう。

私も今、夢中になっていることがたくさんあります。音楽を聴くこと、宇宙の謎について考えること、英語を勉強すること。とにかく人の役に立つ仕事をしたいと考えている私は、どんな大人になっているでしょう。自分が作った曲でたくさんの人を勇気づけているでしょうか。それとも、宇宙の研究をしているでしょうか。得意な英語を使って世界の架け橋になっているでしょうか。私たち中学生の前には、将来の選択肢が無限に広がっています。その選択を急かさないでほしいのです。既存の価値観にあてはめることなく、ゆっくりと選ぶ時間を与えてください。また、前例のないことは否定されがちですが、私たちが夢中になって頑張っていることがあったら、夢や意見を聞いて応援してほしいと思います。もし、「私は将来、音楽に関係する仕事と宇宙に関する仕事に就きたい。」と言っても驚かずに聞いてほしいです。私は私の未来に期待しています。大人になった私はどんな仕事をしているのか、とても楽しみです。



私のおばあちゃん

本庄東中学校2年

むらかみ あきほ
村上 滉歩



「何で私のおばあちゃん是这样なんだろう。一人じゃ何もできないし、私のことだってわからない。」

三年前に亡くなった私の祖母は、認知症でした。私が生まれる二年前にアルツハイマー型認知症と診断され、私が物心ついたときは母がつきっきりで介護をしなければいけないような状態でした。小学校低学年くらいまでの私は、周りの子みたいに、若くて優しく、欲しいものを何でも買ってくれるようなおばあちゃんがいることを羨ましく思っていました。

幼稚園の頃の私は、「認知症」とはわかっているけど、祖母の行動に驚くことがたくさんありました。机の上に置いてあった私のおもちゃを口に入れたり、あめ玉を舐めずに飲み込んだり、誰かが見ていないと危ないこともよくありました。そんな祖母のことを、私は正直よく思っていないでして。なぜなら、祖母さえいなければ、母を独り占めできたからです。昔、母はよくこんなことを言っていました。

「おばあちゃんが家にいるときはおばあちゃんが一番で、おばあちゃんが家に行かないときはあーちゃんが一番だよ。」

と。その頃の私は、母の言うことは全てその通りだと思っていたので、疑問に思いませんでした。

私はよく母と、祖母のいるデイサービスに行っていました。知らないおばあちゃんが私に、

「可愛いね。いくつ？」

と聞いてきたので私は、

「七才。」

と答えました。すると、一分もたたないうちにまた同じおばあちゃんが、

「可愛いね。いくつ？」

と聞いてきたので、私は同じように、

「七才。」

と答えました。その後も何度も同じことを聞かれたけれど、私は同じことを聞かれるのは祖母のことで慣れていたので、何度も同じように答えることができました。帰り道で母に、

「さっきは偉かったね。」

と褒められました。

介護は決して簡単なものではありません。ましてや、一人では何もできない人や、コミュニケーションをとれない人の介護は、大変なことも多いです。しかし、だからこそ、うれしいこともあります。私が祖母に小さく切ったりんごを食べさせてあげたとき、私が、

「おいしい？」

と聞くと、いつもは無反応だけれど、ときどき、

「うん。」

とうなずいてくれたのは、本当にうれしくて、すぐに母に伝えました。無反応のように見えるけど、孫に対する愛情は、失われていなかったのです。当時はわからなかったけれど、今思えば、愛情をうまく伝えられなかっただけなのだと思います。今になって、母にもこんなことがあったのかなと思い聞いてみると、「もちろんあるよ。介護は最初のうちは大変なことばかりで辛いけれど、ずっと何年も続けていると、大変なことは変わらないけれど、おばあちゃんに癒されることもあるんだよ。」

と教えてくれました。

「おばあちゃんの一瞬の笑顔で、その日一日が幸せな気持ちになるんだよ。」

とも言っていました。当たり前ですが、祖母は最初から認知症だったわけではありません。愛情を注ぎながら母を育てていた頃もあったのです。母は、祖母と一緒にいることを幸せに思っていたと思います。また祖母も、娘である母の温もりを感じて安心していたのだと思います。

中学生になった今、私には何ができるだろうか。わかっているつもりでも、もっとしっかりと認知症について知ることから、まずは始めてみたいです。どんなサービスや介護の選択肢があるのかを調べ、元気なうちに父や母の考えを知り、話し合うことも大事だと思います。高齢になると、誰でも介護の必要性が出てきますが、それぞれの家族で事情が違います。一人一人の状況にあった介護サービスが受けられる社会になればよいと思います。いつまでも家族の絆が切れることなく、どんな時でも家族が互いを思いやり、心が通じ合えたら素敵ではないでしょうか。そのために一番大事なものは、家族に対する優しさや思いだと思います。それは、家族との日頃の何気ない会話ややり取りから生まれるものかもしれません。私は、そんな家族との時間をこれからも大切にしていきたいです。

絶滅を選ばな— 未来の地球のために

本庄東中学校3年

やまぐち こうへい
山口 耕平



「Don't Choose Extinction—絶滅を選ばな。」このフレーズは、私がたまたまYouTubeを見ていた時に流れてきた、国連総会会議場で恐竜がスピーチをしている広告で知った。いつもはスキップしてしまう広告だが、その言葉が心に染み、その広告は最後まで見てしまった。

そのスピーチの内容は、このようなものだった。恐竜は、約6,600万年前に、地球に衝突した巨大隕石によって絶滅した。突然の出来事で、かわいそうな運命である。しかし、もし恐竜が意図的に隕石を落とし、絶滅したとしたら、現代の私達はどう思うだろう。かわいそうだとは思えず、絶滅は当然のことだったと誰もが思う。今の我々に置き換えよう。我々人類は、自分達の手で地球を破壊し、絶滅を招いている。「自分たちの手で絶滅した生物。」人類は後の動物達に、こう呼ばれるようになる。今の世界を未来につなげようと努力する人々もいるのに……という内容だった。

世界は今、様々な問題を抱えている。新型コロナウイルス、ロシアによるウクライナ侵攻、地球温暖化、海洋汚染……書き出せばきりが無いほどだ。そして世界には、これらの問題を解決しようと日々努力する人もいれば、解決しようと努力するどころか事態をエスカレートさせようとする人もいる。もちろん後者の人を一概に悪いと言うことはできない。しかし、少し視点をずらして、色々な方向から世界を見てほしい。地球温暖化によって減少する両極の氷、大気汚染で白くかすむ町、変わり果てた森林、そして他国の進行で破壊された家を前に嘆き悲しむ人々……これらが我々人類のもっている素晴らしい「力」や「お金」を追求し

た結果だ。

次に、少し視点を狭めて、日本で見てみよう。SDGsの達成率というものがある。SDGsとは、持続可能な社会を実現するために、環境、人権など様々な面で設定された、世界規模の17の目標である。日本はその総合達成率が79.6%、世界163カ国中19位だ。私は高い成績だと思った。しかし日本は、達成率の高い目標と低い目標で、数字に大きな差がある。「貧困をなくそう」や「質の高い教育をみんなに」という目標の達成率は、ほぼ100%である半面、「ジェンダー平等を実現しよう」や「海の豊かさを守ろう」という目標では、50%前後しか達成できていなかった。例えば、海洋汚染が世界中で問題となっている。廃棄されたプラスチックによって、動物達が命の危機にさらされている。人間の力の乱用が、動物にも影響を及ぼしているのだ。

これまで見てきたように、地球には困っている、苦しんでいる人々、動物達がいる。長い時間をかけて得た人間の力。人間の力を今の人間だけに使うのではなく、その先の未来、末長く続く地球のために使うほうが、価値があるとは思わないか。

そして人類には、発展に発展を繰り返し、今の世界を築いた経験がある。様々な問題から目を背け、今を突き進む時代はもう終わりだ。一度全てを振り返り、問題に目を向ける。まだ発展途上の国を先進国が支援したり、人間だけでなく、動物の生態に目を向けたり、できることは山ほどある。地球という一つのまとまりで動いているからこそ、未来と今をより良く進化させるために、協力すべきだ。人類には応用する力がある。協力する力がある。人数がいる。例え100人でも、76億という数の人々、そして、それを超える数の動物が住む地球を変えることはできる。そして問題を乗り越えた先の地球には必ず今以上の価値がある。

今もっている人類の力を人類の絶滅、動物の絶滅のためでなく、地球の全ての命のために使おう。命のために力を尽くそう。地球は一つ。地球の命は皆、家族。Don't Choose Extinctionには、そんな意味が込められていると、私は信じている。



夢とは

本庄西中学校2年

とだ りょうせい
戸田 諒生



みなさん、夢はありますか？私には、教師になるという夢があります。これは、中学校に入学した頃から思い描いているものです。しかし、クラスの中では自分には夢や目標がないと言っている生徒が多いように感じます。そのことに疑問を感じ、インターネットで調べてみたところ、全国の中学生に行ったアンケートによると、夢があると回答した生徒は約50%しかいませんでした。自分のクラスメイトと同じように感じている生徒が多いことに、衝撃を受けました。

そこで今日は、なぜ、中学生が夢を持っていないのかについて、自分の考えを述べたいと思います。まず、中学生の身近に感じられる職業が少ないことが、一つの原因ではないかと考えました。中学生である私たちの一番身近にある職業といえば、学校の先生でしょう。そして、コロナ禍でテレビなどでも放送が繰り返されている医療関係。最近では、YouTuberも耳にすることが増えました。一方で、スポットライトが当たりにくい、でも縁の下の力持ちのような仕事も日本には数多く存在します。例えば、清掃員。清掃員は、私たちが出すゴミを回収してくれる清掃業務員、オフィスビルや商業施設などを清掃するビル清掃員など多くの仕事があります。そして、植物を使って緑の空間を創り上げる、ランドスケープデザイナー。これは、公園や広場、学校、観光スポットなどでよく用いられているようです。私たちの知らないところで、生活をより良くしてくれる職業がたくさんあります。しかし、今の日本は、清掃員などスポットライトが当たりにくい職業の人たちに対して、侮辱や差別をする人がいます。その理由は、その職業のことを知らないからだだと思います。私のなりたい教師という職業は、身近にあり、クラスメイト

にも気軽に話すことが出来ますが、このようなことも理由となり、自分の夢を話すことが出来ない人も中にはいると思います。その場合、夢が夢ではなくなってしまおうと思います。

侮辱や差別をなくしたり、何の職業でも話したりできる環境を作るには、夢を身近に感じられるようになることが必要だと思います。

そのためには、学校で職業について調べる時間を設けることが欠かせません。そして、そのときに自分の知らない職業について調べることが大事だと思っています。その後、自身の想像力を働かせ、その職業に就いたときには、どんな一日を過ごすのかを考えてみることも大事ではないでしょうか。清掃員を例に挙げて考えてみると、その名前のおり、清掃するだけと思いがちですが、様々なところを隅々まで見落としのないように長時間清掃することは、とても大変なことです。私たちは今、給食の後に15分間の清掃を行っていますが、その15分だけでも、無言・膝つき・暇なし清掃を続けるのは、かなり労力が要ります。その場所を利用する人たちが気持ちよく使い続けられるよう、何時間も清掃を行うのは並大抵のことではないと思います。

そして、自分で調べるだけではなく、生の声を聴くことが出来ると、より私たちはその職業のことを身近に感じる事が出来、選択肢も広がっていくのではないのでしょうか。

これらのことを学校で取り組んでいくことが出来れば、今の小中学生が社会人になったときには侮辱や差別がなくなり、誰もが自分の夢を素直に語り合うことが出来る環境になっていけると私は思います。



私たちの手で 未来を変える

本庄西中学校2年

えんどう ゆな
遠藤 幸愛



今、世界中で人権問題や環境問題など、様々な問題があふれています。私は、その中でも「地球と私たちの未来のために、環境問題の改善をより重視する必要がある。」と考えています。人々の中には、そこまで深刻に考える必要があるのだろうかと思う方や、少し意識をしていけば良いだろうと思う方も少なくないと思います。ですが、もっと一人一人が環境問題についてきちんと向き合い、未来の人々に繋いでいくことが、私たちの使命とも言えるのではないのでしょうか。

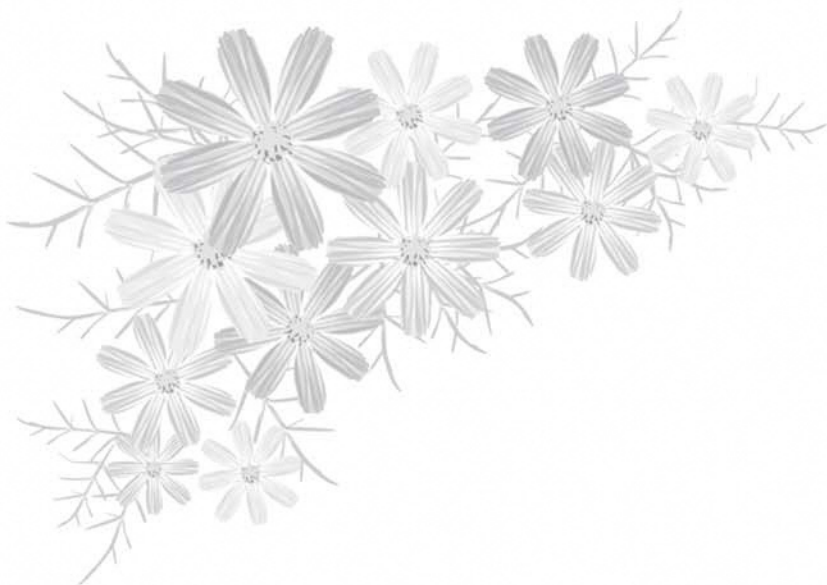
現在、環境問題の中で最も問題視されているのは、皆さんもよく知っているであろう地球温暖化や海洋汚染です。これらの環境問題は、動物の生態系の破壊や大気汚染による健康被害などを引き起こし、地球だけでなく私たち人間にも大きな影響を与えています。今年の夏のニュースでは、猛暑日が長く続いたことが放送されていました。このことは、私たちの身の回りの生活にも大きな影響を与えました。気温が高くなると、熱中症警戒アラートが出ます。これは、熱中症の注意を呼びかける為のものです。コロナの流行でも部活動が制限されているのに熱中症警戒アラートも出てしまうと、私たち生徒は、ほとんど部活ができない状態になってしまいます。他にもニュースでは、水質汚染や大気汚染のせいで、多くの生き物が亡くなってしまおうという放送もされていました。私も実際に、川でプラスチックゴミが絡まっている魚の死がいを見たことがあります。それを見て、とても胸が締め付けられました。誰かの勝手な行動が、一つの命を奪ってしまうことをもっと自覚してほしいです。このように環境問題が関わっている話題が数多く放送されていて、環境問題は日々悪化しているのだなと感じました。環境

問題は私たち人間だけでなく、多くの生き物たちも危険に晒してしまう可能性がとても高いのです。環境問題がさらに悪化してしまうと、その被害もいつかは取り返しのつかないことになってしまうかもしれません。そうなる前に私たちは、少しでも環境問題を改善しなくてはならないのです。

ところで、皆さんはどのくらい環境問題について考えたことがありますか。私は環境問題を今回のテーマにするまで、あまり考えたことはありませんでした。環境問題について考える前は、部屋から出ていく際に電気を消さなかったりテレビをつけっぱなしにしたりすることがありました。家族の誰かが消してくれるだろうと思い、人任せにしてしまうことが多かったです。自分にとっては些細なことが、環境問題を悪化させていたと思うととても後悔しています。ですが、その後悔のおかげで分かったことがあります。それは、環境問題を改善するという目的以外にある、たくさんのメリットです。例えば、電気を使わない時は、こまめに消すことで環境問題を改善するだけでなく、電気代の節約にも繋がります。最近では、政府が電力需給逼迫注意報を発令し、節電への協力を要請する程の電力不足に陥ったこともありました。一人でも多く節電に協力をすれば、電力不足を改善することもできるのです。このように、環境問題を改善するため以外にどんなメリットがあるのか探してみるのも、自分のモチベーション維持に繋がるのではないのでしょうか。

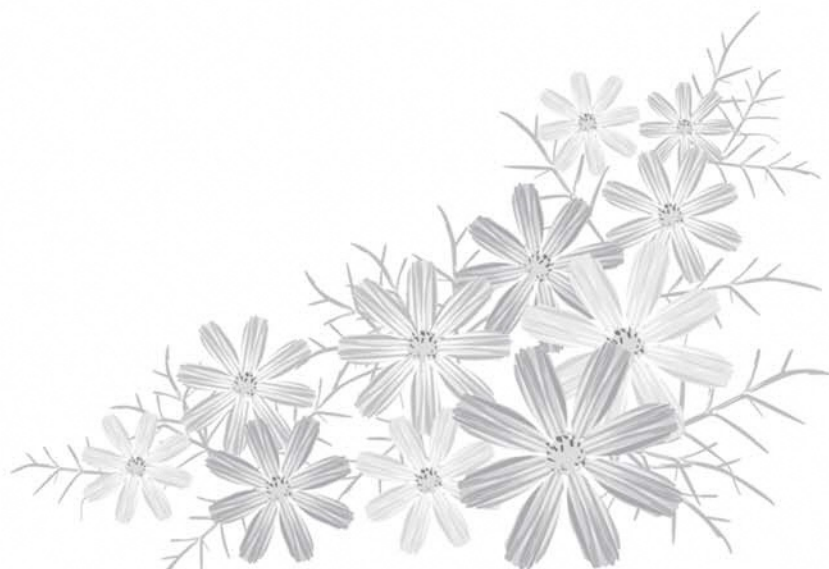
今回私は、環境問題に対する考え方が大きく変わり、未来の人々のためにも環境問題を改善したいと思いました。ですが、環境問題を改善するには問題点を把握した上でなければ正しい対処はできません。そのため、これからも環境問題について深く知ろうと思います。環境問題にあまり興味のなかった方も、まずは環境問題について一度しっかりと考えてみませんか。それは「小さなこと」に感じるかもしれませんが、一人一人が意識して行えば、それは「大きなこと」になっていきます。だからこそ自身のできる範囲の中で、気づいたときに環境問題について考え、行動していきましょう。





青少年健全育成標語 入賞作品

本庄市青少年育成市民会議が市内全小・中学校より青少年健全育成標語を募集したところ、今回は3,112点のご応募をいただきました。どの作品もすばらしいものでしたが、市民会議で厳正に審査した結果、次のように最優秀作品2点、優秀作品15点を決定させていただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。



令和4年度 青少年健全育成標語入賞作品 (小学生の部)

最優秀作品

秋平小学校 6年 ^{はらだ}原田 ^{りあ}莉愛
笑顔はね マスクしてても 伝わるよ

優秀作品

本庄東小学校 6年 ^{きむら}木村 ^{りこ}璃子
言葉の矢 向けたその子に 盾はない

本庄西小学校 6年 ^{こぐれ}小暮 ^{さくら}桜
「おかえり」と 見守る感謝 地域の輪

北泉小学校 6年 ^{はぎわら}萩原 ^{もあな}桜愛奈
ねえ聞いて ケータイよりも 私見て

北泉小学校 6年 ^{はら}原 ^{ゆうき}優輝
どうしたの 目を見て届ける この思い

本庄南小学校 5年 ^{あかがみ}赤上 ^{ここね}心音
「ありがとう」 小さなことにも 感謝して

本庄南小学校 5年 ^{かまた}鎌田 ^{ゆな}結奈
まず笑顔 気持ちを伝える 第一歩

金屋小学校 5年 ^{かねだ}金田 ^{こうき}航來
選ぼうよ 人を笑顔に する言葉

令和4年度 青少年健全育成標語入賞作品 (中学生の部)

最優秀作品

本庄南中学校 3年 岩崎 歓歩
SNS それ載せちゃって 大丈夫?

優秀作品

本庄東中学校 1年 大塚 勇吹
思いやる あなたの笑顔が ひかっている

本庄西中学校 1年 山下 諒輔
感じよう 友達がいる あたたかさ

本庄西中学校 2年 織茂 小次郎
少し違う それもあなたの いいところ

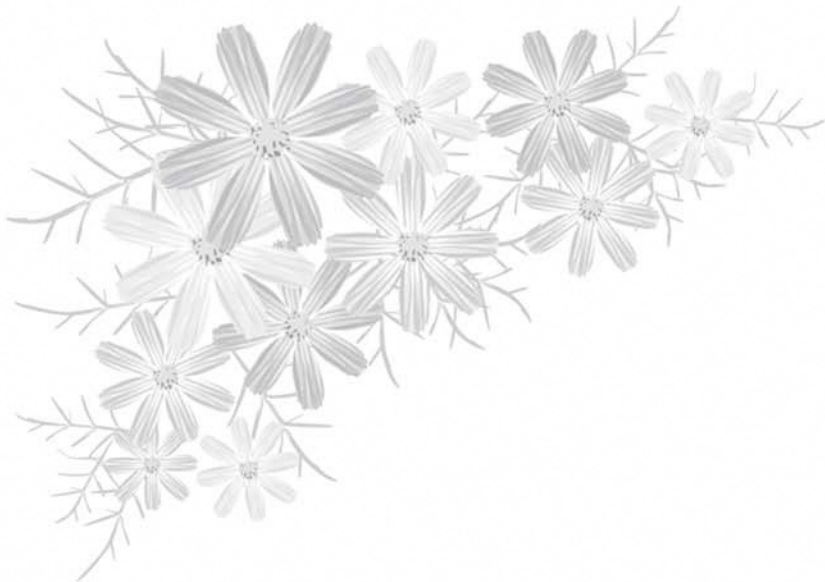
本庄南中学校 1年 永島 琴乃
協力し 地域で育む 笑顔の花

本庄南中学校 2年 小此木 悠貴
叱るより ほめて伸ばそう 自立心

本庄南中学校 2年 成田 桜月
「ありがとう」 笑顔広がる おまじない

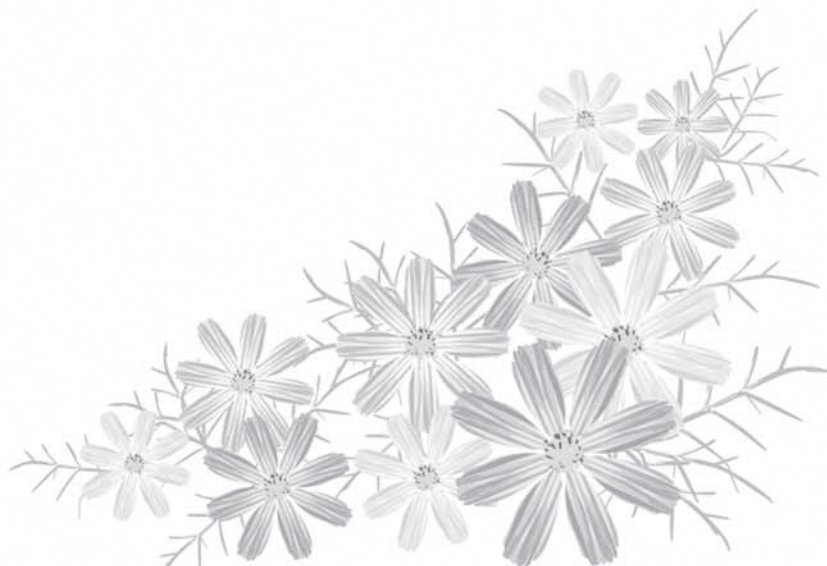
児玉中学校 1年 福島 梨花
手をつなぎ みんなで1つ クラスの輪

本庄東高等学校附属中学校 3年 坂本 夏美
LINEだけじゃない 言葉と笑顔でかわす コミュニケーション



青少年・青少年育成者等 功労表彰

青少年の健全育成に努め功績顕著な者、青少年のうち他の模範となる者及び他の規範となる活動を継続的に行っている青少年団体等を表彰し、その実績を広く市民の皆様にご紹介いたします。



令和4年度 本庄市青少年育成市民会議 青少年・青少年育成者等功労表彰受賞者(団体)一覧

●青少年育成者の部

・よこやま のりひろ横山 紀祐 (本庄サッカー少年団ホッパーズ 代表)

本庄サッカー少年団ホッパーズの代表として、小学生へサッカーの指導を行っている。平成24年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。長年、本庄市スポーツ少年団の振興のため団体の組織づくりに尽力し、今後も活動を発展させていく人材として期待されている。また、子どもたちの自立や自主性を尊重しながら指導をする姿は他の模範となり、青少年の健全育成に貢献している。

・たけうち ひでゆき竹内 英幸 (本庄旭サッカースポーツ少年団 指導者)

本庄旭サッカースポーツ少年団の指導者として、長年にわたり小学生へサッカーの指導を行っている。平成24年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。本庄市のスポーツ少年団の振興にも尽力しながら、チームの子どもたちの他者への尊重と思いやりの心を養い、生活習慣や健康管理についても指導を行うなど、青少年の健全育成に貢献している。

・おくやま じゅん奥山 潤 (本庄中央サッカークラブスポーツ少年団 指導者)

本庄中央サッカークラブスポーツ少年団の指導者として、10年間にわたり地域の子どもたちにサッカーの指導を行っている。平成25年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。本庄ジュニアサッカー連盟の審判や公式試合の審判なども積極的に協力し、また、本庄市スポーツ少年団の振興にも尽力しており、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

・こまつ じゅんこ小松 純子 (本庄藤田スプリングススポーツ少年団 保護者会副会長)

本庄藤田スプリングススポーツ少年団、本庄ミニバスケットボールスポーツ少年団の指導者として、長年にわたり小学生へミニバスケットボールの指導を行っている。平成25年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。保護者の立場から、子どもたちの競技力の向上のみならず、生活習慣や健康管理についての指導を行うなど、青少年の健全育成に貢献している。

・ほりぐち かずまさ堀口 和正 (本庄南ミニバスケットボールスポーツ少年団 指導者)

本庄南ミニバスケットボールスポーツ少年団の指導者として、長年にわたり小学生へミニバスケットボールの指導を行っている。平成25年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得し、本庄市のスポーツ少年団競技力の向上のみならず、他者への尊重や思いやりの心を養い、生活習慣や健康管理について指導を行うなど、その活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

・直江 和美 (児玉剣道教室スポーツ少年団 代表・埼玉県スポーツ少年団剣道部会 幹事)

児玉剣道教室スポーツ少年団の代表として、長年にわたり小学生へ剣道の指導を行っている。平成25年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。本庄市スポーツ少年団の振興に尽力し、また、埼玉県スポーツ少年団剣道部会の幹事も務めている。穏やかな人柄は子どもや保護者からも尊敬されており、競技力の向上を目指し、子どもたちを心身ともにサポートするなど、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

・片場 元彦 (本庄アタッカーズスポーツ少年団 監督)

本庄アタッカーズスポーツ少年団の監督として、21年間にわたり小学生へドッジボールの指導を行っている。平成25年度に日本スポーツ少年団認定員指導者を取得。本庄市のスポーツ少年団の振興にも尽力しており、子どもたちの競技力の向上のみならず、あいさつや礼儀の大切さを教え、他者への尊重と思いやりの心を養うなど、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

●団体の部

・絵本の森 (平成15年2月設立)

平成15年2月に設立。藤田小学校において、19年の長きにわたり、児童への読み聞かせボランティアを行っている。

毎週木曜日に、全学級に出向いて読み聞かせを行い、また、メンバー間で新しい取り組みを模索し情報交換を行うなど、子どもと本の出会いが途切れることのないよう尽力し、青少年の健全育成に貢献している。

・こだまっ子 (平成18年4月設立)

平成18年4月に設立。児玉小学校において、16年の長きにわたり児童への読み聞かせボランティアを行っている。

毎週水曜日の朝、各学級に出向いて読み聞かせを行い、また、昼休みには全校放送による読み聞かせを行うなど、心豊かな子どもを育てることを大切にしたボランティア活動を続け、青少年の健全育成に貢献している。

・金屋っ子 (平成23年頃設立)

平成23年頃に設立。金屋小学校において、10年以上児童への読み聞かせボランティアを行っている。

月に一度、全学級を対象に読み聞かせボランティアを行い、児童が本への関心を持ち、有意義な時間を過ごしてもらいたいと学校と連携しながら活動を続けており、青少年の健全育成に貢献している。

本庄市青少年育成市民会議の主な行事

- 5月 青少年育成埼玉県民会議総会
- 6月 本庄市青少年育成市民会議総会
- 7月 青少年非行防止街頭キャンペーン 駅周辺・商業施設
(合同開催：社会を明るくする運動本庄市実行委員会・埼玉県)
// 第1回青少年非行防止夜間パトロール 本庄駅・児玉駅周辺巡回
- 10月 青少年育成管外研修(対象：中学2年生)
// 第2回青少年非行防止夜間パトロール 本庄駅・児玉駅周辺巡回
- 11月 青少年健全育成のつどい(青少年の主張発表会・主張発表者表彰・青少年健全育成
標語入賞者表彰・青少年育成者等功労表彰)
- 12月 青少年育成推進員学校訪問
- 2月 第3回青少年非行防止夜間パトロール 本庄駅・児玉駅周辺巡回
// 親子名作映画劇場(会場：本庄市民文化会館)

青少年育成埼玉県民会議にて表彰されました

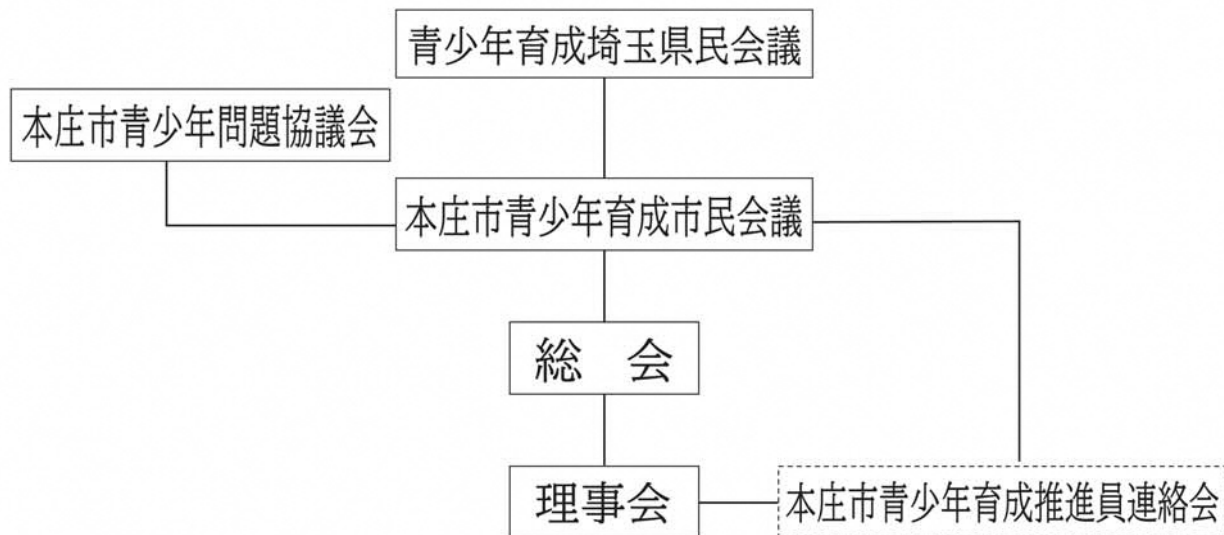
昨年、11月28日(日)に知事公館大会議室において「令和3年度青少年育成埼玉県民会議表彰式」が開催され、本庄市からは高崎 ま里子 様が「青少年育成功労賞」を受賞されました。青少年育成功労賞は、青少年の健全育成に資する活動を長年にわたり行っている個人・団体に対する表彰です。

高崎 ま里子 様

本庄市青少年育成市民会議の役員として青少年の健全育成に携わり、積極的に活動をされました。また、本庄市コミュニティ協議会理事兼広報委員会副委員長として、当該協議会の事業の企画や広報紙作成等、市民のコミュニティの場所づくりのための活動に貢献されました。



本庄市青少年育成市民会議組織図



No.	団体名	評議員	理事
1	本庄市子ども会育成会連合会	2	1
2	ボーイスカウト本庄第1団	2	1
3	本庄市スポーツ少年団	2	1
4	(公社)こだま青年会議所	2	1
5	本庄市民生委員・児童委員協議会(主任児童委員)	2	1
6	サラ本庄	2	1
7	本庄地区保護司会本庄支部	2	1
8	児玉地区保護司会児玉支部	2	1
9	本庄市更生保護女性会	2	1
10	本庄市児玉町更生保護女性会	2	1
11	本庄上里地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
12	児玉郡南部地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
13	熊谷人権擁護委員協議会本庄部会	2	1
14	本庄市自治会連合会	1	1
15	本庄ライオンズクラブ	2	1
16	本庄ロータリークラブ	2	1
17	本庄商工会議所	1	1
18	本庄市老人クラブ連合会	2	1
19	本庄市福祉事務所(地域福祉課)	2	0
20	本庄市青少年相談員協議会	1	1
21	本庄市青少年育成推進員連絡会	0	25
	合計人数	37	44



**毎月第3日曜日は
「家庭の日」**

毎月第3日曜日は「家庭の日」

「家庭」は、青少年を健全に育成するための最も重要な生活の基盤です。青少年育成埼玉県民会議では、家庭と家族一人ひとりが愛情と信頼で結ばれ、心のふれあいを図ることのできる場とするため、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年の健全育成を目的として、「家庭の日」の普及を推進しています。また、各種青少年育成団体相互の連絡協調を図りながら、社会環境の浄化の推進及び青少年の健全育成活動を推進しています。